USM

Make it yours!

Edition N°2

読者の皆様へ

USMモジュラーファニチャーの汎用性は、実際の使用例を見るとよくわかります。アトリエ、オフィス、ライブラリー、そして住居の中で、USMは独創的に、実用的に、そしてスタイリッシュに使用されています。それらは、素敵なインテリアのヒントであふれています。

この冊子では世界中の事例をご紹介しています。創造力に満ちた豊かなアイデアによって生み出されたさまざまなUSMのある風景をご覧ください。ミュールーズのユーロエアポート、ドランメンのヨハンソンファミリー、ボローニャのクリエイティブラボ、沖縄のリハビリテーションクリニックなど、世界中の人々が、機能的な美しさ、洗練されたデザインやカラーバリエーションといった特別な"USMらしさ"に惹きつけられています。

USMの無限の可能性は、その発売から50年以上を経た今も変わることはありません。一方、世界でそしてわたしたちの身の回りで変化は絶え間なく起きています。そうした変化の節目に合わせて、USMは一人ひとりのワーク＆ライフを快適にするお手伝いをします。

どんなにライフスタイルが変化しても、変わらぬ価値を見つけてください。

USMモジュラーファニチャー

Home & Work

4 クリスティーナ・ピックフォールド
A passion for midcentury design

20 オグルヴィ・アンド・メイザー
Creativity comes from exploration

24 ジェレミー・タリアン
Entrez

36 フイゴ
Material matters

54 アレクサンダー・ヨハンセン
Colors everywhere

58 ジェイソン・ミラー・スタジオ　ロール&ヒル
Modernist geometry designed for living

70 ザグズ
Flexible and structural

78 モス&ラム スタジオ
A blank canvas

88 チップ・ラッセル
Maximum space

90 スタンホープ PLC
Modularity at its best

102 株式会社エムステージ
The world is a stage

106 ハフター・ハウス, ブランガー・アーキテクツ
A place to exhibit, a place to work

112 ル・グラム
Reduced to the max

116 株式会社ジグ
Let's get together

122 ベア&カレア AG
The law in the right light

124 LCH
Top marks for decor

128 ヘイ・ウーマン!
Modern workforce

136 インペリアル・クリエイティブ・ラボ
Designing the future

Public & Retail

10 サントス・ブレガーニャ
The art of storytelling

14 ZAZA (ザザ)
Floral poetry

30 ミース・ファン・デル・ローエ・パビリオン
The whiteout

40 ユーロエアポート(バーゼル・ミュールーズ・フライブルク国際空港)
Ready for takeoff

42 フェルナンド・オイザ
Unexpected beauty in Basque country

48 ラスコー国際洞窟壁画センター
A journey back through time

62 株式会社グローヴディッシュ
A perfect dining experience

66 ヘンゼル&グレーテル
Old love never dies

74 メディアテーク B612
A library by design

84 ロクト整形外科クリニック
High-class care

94 ユヴェリエ・パルム
Tradition and cutting-edge design skillfully combined

98 アヴリル・ノーラン&クイ・グエン
Driven by a curiosity

132 アルテス・ゲヴルツアムト
Sensitive structuring

DISCOVER MORE CONTENT usm.com

A passion for midcentury design

クリスティーナ・ピックフォールドの手にかかれば、仕事場を生活の場と同じにしても美しい空間ができあがります。フォルムやテクスチャに関する優れたセンスを活かし、彼女はヴィンテージの家具を巧みにミックスさせます。

名前：
クリスティーナ・
ピックフォールド

職業：
インテリアデザイナー

居住地：
ニュージーランド、
オークランド

USMをはじめて購入した年：
2017年

環境を変えようと転居を考えたインテリアデザイナーのクリスティーナ・ピックフォールド。彼女は、新しい都会の家には、タイムレスなデザインをアクセントにしたいと考えました。クライストチャーチ郊外にあるミッドセンチュリー風の家屋から、国際都市オークランドにある屋外スペースのないアパートへ移り住むことになった時、歴史と現代アートを学んだ彼女の経歴が役立ちました。彼女はこのパーソナルなプロジェクトに没頭し、そこに、異なる様式、時代、格式をミックスさせるという、彼女の家具選びのスタイルを反映させました。

さらに、一生愛用できると思った家具だけを揃えるのがクリスティーナ流。そんな家具の一つがUSMハラーでした。寝室やリビングルームにもシンプルな美しさを取り入れるため、クリスティーナは、統一感のあるこのモジュール式家具を選び、リラックス感だけでなく洗練された雰囲気を演出しました。「サイズの異なる引き出しを組み合わせてアシンメトリなデザインにしたところが気に入っています」と、本棚を指差して彼女は言います。「カスタマイズできるからこそ、ありきたりの家具とは違う味が出せるのです。遊び心がありながら、落ち着いて控えめです。」また、USMの家具には柔らかさがあると彼女は感じています。「パウダーコーティングされたスティールパネルのせいか、ハードだけではない魅力があるのです。程良いディテールへのこだわりが感じられます。」

「私は自分たちが一生大事に楽しむことができると思うもの、
時の試練に耐えられるものを選びます。」

「詩情性と機能性」をコンセプトに、建築家兼デザイナーのサントス・ブレガーニャは、美食との出会いに感動を与える意味深くノスタルジックな空間を作り出します。

The art of storytelling

名前：
サントス・ブレガーニャ

職業：
建築家、デザイナー

所在地：
スペイン、
サン・セバスティアン

レストラン名：
Restaurant Huarte
(スペイン、パンプローナ、ナバーラ大学美術館内)

USMをはじめて購入した年：
2015年

サントスは、自然にインスピレーションを受けて、儀式的かつ人間的行為を引き起こす食の可能性をストーリーで伝えようとしています。「レストランに来られたお客様が周囲の調和を感じて下さることが私たちの願いです。たとえ言葉で表現できないことだとしても、ここではすべてのものに意味があるのです。」ストーリーを伝えるとともに、想像力を掻き立て且つ機能性を実現するために、インテリアデザインは実用的でなければならないというのが彼の考えです。

サン・セバスティアンを拠点とするサントスのスタジオの新しいプロジェクトである、Huarte（パンプローナにあるナバーラ大学美術館内のレストラン）の独創性は、彼のポートフォリオを完璧に形にしたものです。海をテーマとして、このレストランの特長の多くはさまざまなストーリーを秘めています。デザイナーによると、表向きの物語の裏には、秘密のエピソードが必ずあるそうです。そしてさらに重要なのは、同時にそのひとつひとつが機能的な役割を果たしているということです。Huarteには、USMのシグネチャーアイテムであるUSMハラーが中心に配置され、ブランドの「タイムレスなデザイン」を象徴しています。シェルフユニットには、カトラリー、テーブルリネン、ガラス製品を収納するとともに、可動式のカートを2台備えています。同時に、それはカジュアルなウェイティングエリアとフォーマルなダイニングエリアを自然に仕切る役割も果たしています。

「私にとって、USMは常にポジティブな結果をもたらしてくれるゴールドスタンダードです。その構造や仕上げには、クライアントを惹きつける魅力があるのです。」

Floral poetry

水平方向と垂直方向に直線で構成されたUSMハラーは、有機的なお花のナチュラルさをより引き立ててくれます。オートクチュールのお花屋さんにとって、什器も重要なアレンジメントの一部なのです。

会社名：
ZAZA（ザザ）

分野：
フラワーショップ

所在地：
広島県広島市

USMをはじめて購入した年：
2015年

広島市中区中町、セレクトショップやカフェが立ち並ぶ通りのビル地下にあるZAZA（ザザ）は、2016年にフラワーブティックとして新たな一歩を踏み出しました。1本ずつ花を販売するお店というより、お客様の要望を受け、フローリストがアレンジメントやブーケなどをオーダーメイドで制作する作品の工房でありギャラリーのようなお店です。大きなガラス越しに色鮮やかな花々が活けられた店内は、さながらショーウィンドウのよう。来店客は美しく仕上げられたサンプルのアレンジメントを、お気に入りの服を探すように眺めながら、プレゼントする相手やシーンを想像します。そこで重要になるのがアレンジメントをディスプレーする什器です。主役である花を引き立てながら機能性も両立させるためにUSMハラーをお選びいただきました。

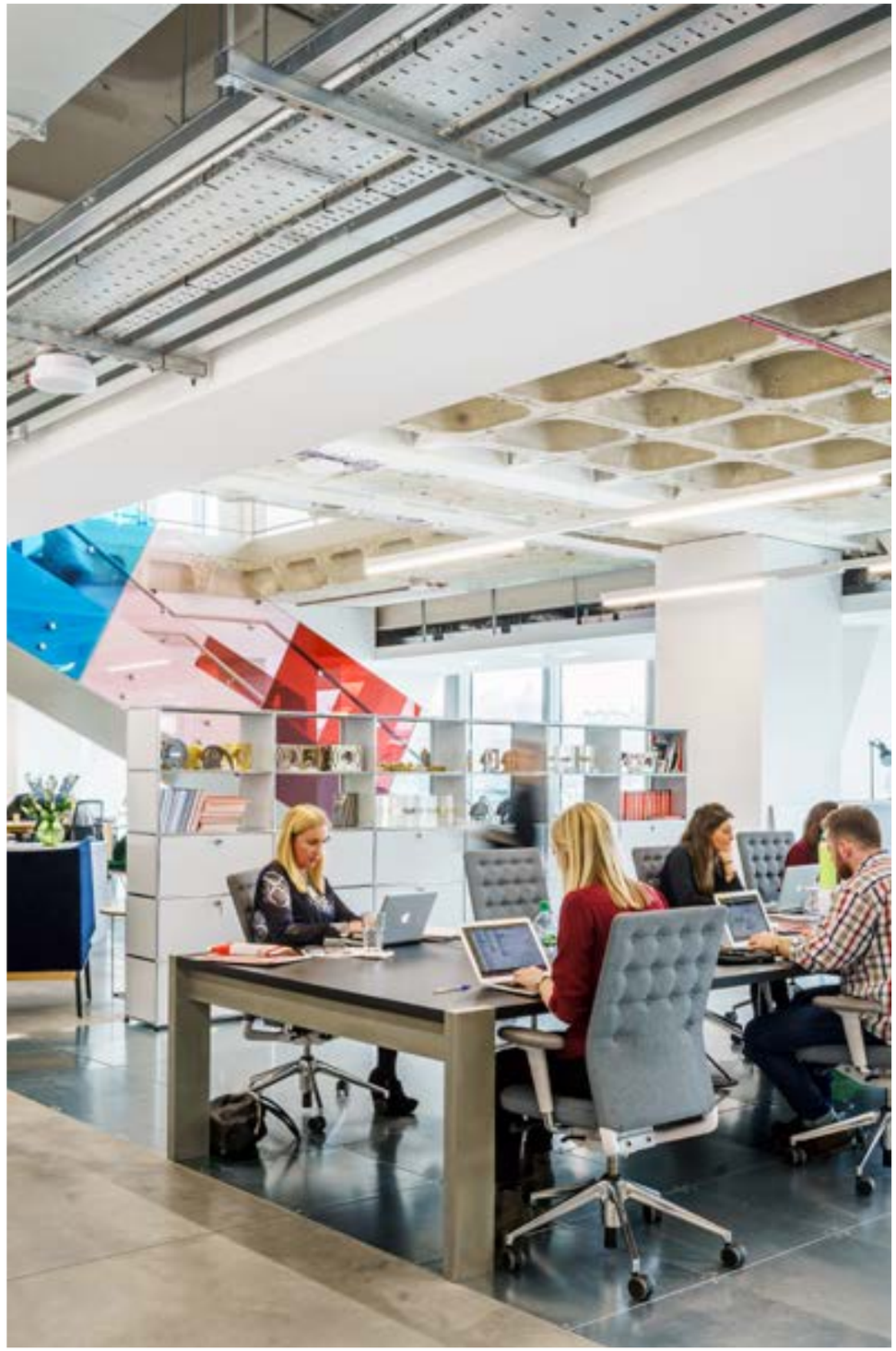
ZAZAが一番大切にしてきたことは“似合うお花”。対象は人であったり置かれる場所であったりします。そのため活け方も様々で、色使いも単色だったり多色使いだったり、自然感を生かしたアレンジメントのこともあれば、建築物からインスピレーションを受けてモダンでスタイリッシュなアレンジメントを目指すこともあります。これまで携わってきた作品は、大切な方への小さなブーケからホテルのエントランスさながらの大型装飾まで実に様々です。

そんな多種多様な作品を創り出すとき、USMのシンプルで機能性の高いデザインはとても強い味方になっています。USMハラーはフレームが細いため、花が見せやすいうえに背を高くしても店内の見通しが良く、繊細な花のアレンジメントを軽やかに演出することができます。パネルの位置は自由に設定できるので、道具など隠したい物を手元の高さで収納できるようにユニットを組むことも可能です。また、お花を扱う店舗では、重いガラスの花器とそこに注がれる水、土の入った陶器の鉢など、相当な重量を支えてくれる什器が必要です。しかし、USMハラーであれば、細いフレームにもかかわらずそれは全く心配のない問題です。また、デパートからポップアップショップの展開を依頼された時、お店のUSMハラーを持ち込んでスペースに合わせてユニットを組み替えて展示したこともあったそう。そのフレキシブルさを十二分に感じて頂いています。

オフィスや住宅だけではありません。
ときには花と一緒に美しく繊細に。

Creativity comes from exploration

ロンドン、サウス・バンクのクリエイティブマイルに建てられたOgilvy Groupの新しい本社は、クリエイティブな企業文化をワークスペースに融合させました。



会社名：
オグルヴィ・アンド・メイザー

分野：
広告代理店

所在地：
イギリス、ロンドン

USMをはじめて購入した年：
2016年

総面積：
20,000平方メートル

「社員が伸びれば組織も伸びる。ここは個人としてもチームとしても一人ひとりが最高の力を発揮できるワークプレイスです。」

Gill Parker, CEO BDG architecture + design

どのフロアでも新しい経験ができる。そんな相互作用を目指して作られたワークプレイスが持つ可能性を想像してみてください。思いがけないイベントやパフォーマンス、静かな空間、大きな窓、腰を下ろせる棚、じっくり考えるためのコーナー、行きかう笑顔、アートワーク、美味しい食事やコーヒー、そして1日の仕事が終わった時は、疲れ果てて家路に着くのではなく、爽やかで楽しい気分で会社を出る。そんな、身も心も充実するワークプレイスを想像してみてください。

これこそがOgilvy Groupの新しい本社です。ここには、人々が交流し、途切れなく昼が夜に変わり、時間を気にすることなく、働き、考え、休息し、遊び、自分自身になれるチャンスがある場所です。ワークライフバランスが話題になっていますが、その仕組みはシンプルです。今注目されている場所で、かつては美しかった建物の荒廃した基本構造を活かし、新たに再生しました。そして、勇気を持って床板を取り外し、ワークプレイスの在り方に対する既成概念を劇的に変えました。そこを毎日使う人々のために空間をデザインし、堅苦しいオフィスではなく、そこで働く人々が単調だと感じる場所にチャンスをもたらす空間を作りました。人々が目標に向かって進み、自分の最高の力を発揮できる環境を提供すれば、企業も繁栄するのです。

Entrez

ジェレミー・タリアンは、旅行好きのパリジャンです。パリ植物園の近くで生まれ育ち、後にパリ1区に移り住みました。しばらくベルリンとニューヨークで過ごした後、2012年にパリに戻り、オリジナルのアイウェアブランド「Tarian」を立ち上げました。

この家具を僕のニーズに合わせてデザインし直し、少しずつカスタマイズしていったのです。

名前：
ジェレミー・タリアン

職業：
デザイナー

居住地：
フランス、パリ

USMをはじめて購入した年：
2015年

色や洗練された素材にこだわるジェレミー・タリアンは、1日の半分をシャトー・ドーにあるアパートで、そして残りの半分を北マレの裏通りにあるアトリエで過ごします。ツートンカラーのUSMの家具は、限定品のモダンなアイウェアシリーズや古いマーブル模様の陶芸技術を駆使した美しい陶芸品といった、ジェレミー・タリアン自身の作品を陳列し、より魅力的に見せるのにピッタリでした。それら二つの分野は異なりますが、彼の創作活動の基盤にあるのは素材です。

アパートもアトリエもジェレミーのインスピレーションが反映されていて、伝統とモダンが混在した空間に、厳選されたエレガントで機能的なデザインの家具が置かれています。彼のアパートでは、元々あった寄木作りの床、暖炉、古い扉などは残しつつ、動線をスムーズにするため扉を外してセミオープンのキッチンを設置するなど、モダンなレイアウトを取り入れています。

彼が過ごす空間は、アイウェア、陶器、家具にいたるまで、すべてが絶妙な配色でまとめられています。古いアセテートを使った独特の魅力的なカラーの眼鏡は、そこで作り出されているのです。

これらのカラーの組み合わせは、私が選んだ
USMハラーのカラーと同じでした。

The white-out

ミース・ファン・デル・ローエ財団は、バルセロナにあるミース・ファン・デル・ローエ・パビリオンを、毎年その名に相応しいアーティストや建築家に改装してもらう取り組みを行っています。この取り組みは、モダニズム建築の傑作の一つとして知られるこの建物を、より多くの人に知ってもらい興味や関心を深めてもらうことを目的としたもので、今回は建築家のアンナとユージェニー・バッハが選ばれました。二人は、11日間にわたって、この建物のすべての表面を同じ白の素材で徐々に覆っていきました。

改装作業の終了前に、USMハラーがそのパビリオンで撮影されました。何もない真っ白な空間とUSMハラーのタイムレスなデザインそして印象的なカラーのコントラストが、完璧な美しさを見せています。

Material matters

ニューヨークの革新的なテクノロジー・スタートアップ企業によるインテリアデザイナー向けのコワーキングスペースは、デジタル化時代において、デザインのための様々な素材を手に取れる環境が、デザイナーにとって重要であることを教えてくれます。

会社名：
フイゴ

分野：
コワーキングスペース

所在地：
アメリカ、ニューヨーク、ミッドタウン

USMをはじめて購入した年:
2015年

「USMの家具は検討に検討を重ね選びました。」と、マテリアルライブラリーのマネージャー、ラエ・バーミューレンは話します。「ライブラリーは、美しくきれいに陳列された作品を、自ら手に取ることができるギャラリーとして設計されました。ライブラリーを利用する人が常に出入りしますが、USMは整理整頓が容易で収納家具としての美しさにも満足しています。」

日本語の「ふいご」を社名に持つこの会社は、ニューヨークのフラットアイアン地区にあるユニークなコワーキングスペースです。そこでは、インテリアデザイナー向けにプロジェクトマネジメントソフトウェアをはじめとして、彼らが必要とするサポート機能を備えています。マウリとミッキー・リアッド兄弟とStephens Design Groupのブラッドレイ・スティーブンスが共同で設立し、ブラッドレイがオフィスの設計を手掛けました。彼はフロア全体を使い、コミュニティスペースとしても作業スペースとしても使える1,700平方フィートの広さのフラッグシップ・スペースを造りました。この会社では、クラウドを使ったソフトウェアサポートの他、インテリアデザイナー向けの最先端のテクノロジーを提供しています。作業スペースの中心にあるのは、USMの家具を使用した全くオリジナルのリソースライブラリーです。ここには、デザインに必要な素材のアーカイブから最新のものまで、20,000点以上ものサンプルが収納されており、インテリアデザイナーたちは他では見ることができないそれらを手に取ることができます。

空港名：
ユーロエアポート
（バーゼル・ミュールーズ・フライブルク国際空港）

分野：
エアポート

所在地：
スイス、バーゼル

USMをはじめて購入した年：
2017年

「『わあ、素晴らしい！きれいになりましたね！』利用者のこうした反応を見て、私たちの決断は正しかったと確信しました。」

Oktay Cetintas, Head of Passenger and Terminal Operations, EuroAirport

スイス、フランス、ドイツ3ヵ国の国境近くにあるユーロエアポート（バーゼル・ミュールーズ・フライブルク国際空港）は、国を越えた共同プロジェクトの成功例です。自由の象徴でもあるこの空港に、USMが合わないはずがありません。

Ready for takeoff

マドリード、ストックホルム、またはテルアビブ行きの飛行機は、まもなく出発の時間です。燃料タンクは満タン、搭乗を待つ乗客たちは静かだけれど待ちきれない気分です。

その搭乗口に、これまでもずっとそこにあったかのように置かれているのは、マットシルバーのUSMの搭乗ゲートです。2017年の夏に設置されてからまだ間もないのですが、機能的なこの空港にしっくりとなじんでいます。この時設置したカウンターは全部で5台。古いゲートは取り除き、新しいものを設置しました。しかし、置き換えるのは言葉ほど簡単ではありません。飛行機は停止することなく運航しなければならないため、入れ替え工事の間もゲートは常に稼働していなくてはいけません。ケーブル、ポート、コネクター、スキャナー、モニター、通信システム、あらゆるIT機器が途切れなく動作することも求められました。詳細は省きますが、かなりの挑戦だったことが想像できるでしょう。このような難しいケースにも対応できるのが、USMハラーです。フレキシビリティ、モジュール性、シンプルな構造といった特徴が、こうした困難な場面でその機能を発揮します。国際空港の搭乗ゲートにまさに相応しい風格まで備えているのです。

搭乗準備はもちろん完璧です。

スペイン、ナバーラにあるホテル「Villa Clementina」は、1888年に建てられました。その後、全面的な改装を経てリニューアルオープンし、現在は幅広い客層を迎え入れています。

Unexpected beauty in basque country

Villa Clementinaは、スペイン北部のナバーラの中心にある高級ホテルです。建設当初の19世紀ならではの雰囲気を残しながら、内装は現代的な要素を取り入れて、美しいたたずまいを見せています。

建築家のフェルナンド・オイザは、豪華な9つの客室を備えたホテルを作ることで、このヴィラに命を吹き込み復活させました。宿泊客は、復元された古い建物の雰囲気を体験すると同時に、新しいモダンな感覚を味わうことができます。「USMは、私が探しているものを完璧に形にしてくれると感じました。つまり、相反する物が作るバランスです。」と、彼は語ります。「USMハラーは、華やかに装飾された空間と好対照な静寂を感じさせてくれます。このホテルは、私にとって『洗練』の象徴でした。USMの商品を言い表す言葉があるとしたら、それはやはり『洗練』でしょう。」

フェルナンドは、USMの時代を超えた品質の高さはヴィラの哲学と合致していると考え、ライブラリーの本棚、居間に置いたキャビネット、ダイニングルームのシェルフ、寝室用のユニットなど、ホテルの至る所でUSMのアイテムを使用しています。色はすべてブラックで、ヴィラ全体をまとめる役割を果たすとともに、おもてなしに相応しい統一感のある印象的な空間を作っています。

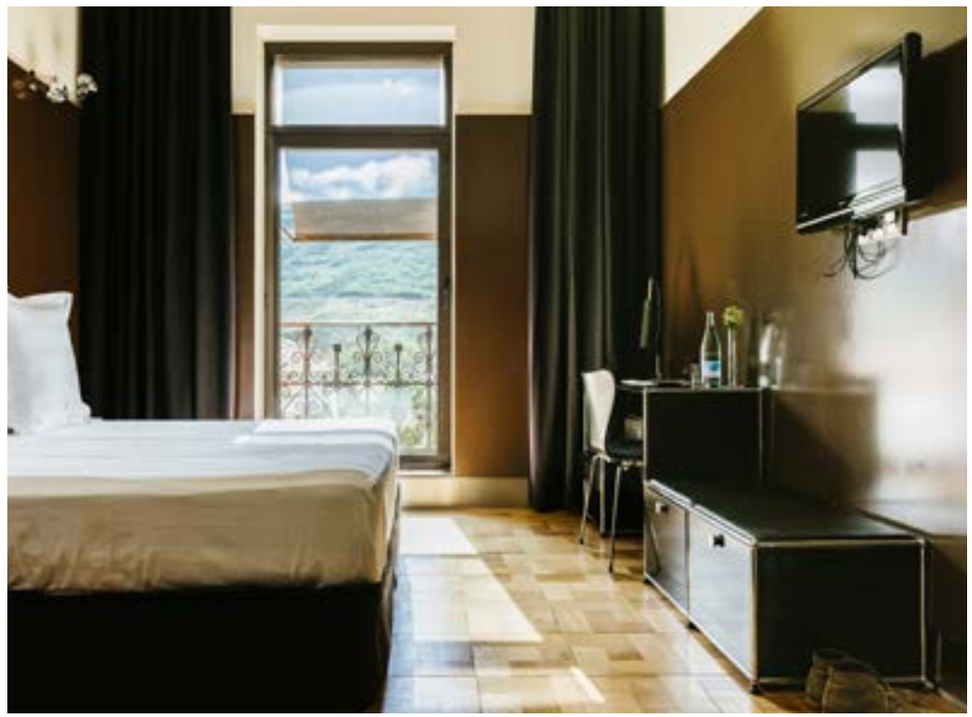
「ディテールの細かさや正確さ、取っ手、スタイル…どれを取っても、Villa Clementinaに完璧に調和すると思いました。」

名前：
フェルナンド・オイザ

職業：
建築家

居住地：
スペイン、パンプローナ

USMをはじめて購入した年：
2010年



「USMハラーは、華やかに装飾された空間と好対照な静寂を感じさせてくれます。また、このホテルは、私にとって『洗練』の象徴でした。USMの商品を言い表す言葉があるとしたら、それはやはり『洗練』でしょう。」

A journey back through time

1940年、ラスコーの山腹で偶然見つけた洞窟で、世紀の大発見をした4人の少年たちの気持ちになってみませんか？
時間をさかのぼる旅へ出かけましょう！

施設名：
ラスコー国際洞窟壁画センター

分野：
博物館

所在地：
フランス、ラスコー

USMをはじめて購入した年：
2016年

1940年9月12日、倒れた木で覆われていた洞窟に足を踏み入れたモンティニャックの4人の少年たちは、それが20世紀を揺るがす考古学的発見の一つになるとは知る由もありませんでした。そこで彼らが見つけたものは、18,000年前の素晴らしい絵画作品だったのです。

その後一般公開により損傷が進み、1963年に洞窟は閉鎖されることになりましたが、1983年に「ラスコー洞窟II」と呼ばれる最初のレプリカが制作・公開され、2016年後半には、洞窟を完全に再現したラスコー国際洞窟壁画センター「ラスコー洞窟IV」がオープンしました。

印象的なモダンなデザインの建物は、周囲の風景や山腹の岩石層に自然に溶け込んでいます。館内の展示スペースは、まるで本物の洞窟にいるかのように演出されており、来館者を時をさかのぼる旅に誘います。旅が終わったところにあるミュージアムショップでは、来館者はこの素晴らしい旅のお土産や記念品を購入することができます。

そのミュージアムショップに設置されたUSMハラーは、カスタマイズ可能で、高品質で機能性があり、独特の建築にも完璧になじむシンプルなデザインで、このプロジェクトでは当然の選択肢でした。

18,000年前に歴史をさかのぼる施設にとって、
タイムレスなデザインの家具は必須アイテムでした。

Colors everywhere

こちらのお宅にUSMの家具はいくつ置かれてるでしょう?ノルウェーに住む一家は、大胆な発想で部屋ごとに異なるカラーのUSMハラーを置きました。遊び心に溢れたアイコニックな商品の使い方です。

名前：
アレクサンダー・ヨハンセン

職業：
フォアマン

居住地：
ノルウェー、ドランメン

USMをはじめて購入した年：
2014年

イエローのブックシェルフ、ブルーのおもちゃキャビネット、グリーンのキッチンシェルフ、ホワイトのオーディオラック、カラフルなUSMユニットが各部屋で迎えてくれます。ヨハンセン家にとって、色はUSMの家具と同じぐらい身近な存在です。白木作りの家から見えるフィヨルドの壮大な景観も、この鮮やかなカラーのUSMが美しく調和していざないます。「部屋ごとにカラーが違うので、部屋を移動するだけでワクワクします。」と、アレクサンダー・ヨハンセンは語ります。お気に入りは、グリーンで統一したキッチンシェルフだそうです。
「ホワイトを基調にしたインテリアデザインと組み合わせれば、USMのグリーンのユニットは素晴らしく映えるので、二階に計画しているバスルームにもグリーンを使おうと考えているところです。」統一感はもちろん保証済みです。

Modernist geometry designed for living

コンセプチュアルでありながら機能的、かつ傑出した品質の作品で知られるジェイソン・ミラー。彼の住まいは、緑豊かなブルックリンのキャロル・ガーデンの近くにあります。

会社名：
ジェイソン・ミラー・スタジオ
ロール&ヒル

分野：
デザイン

所在地：
アメリカ、ニューヨーク、
ブルックリン

USMをはじめて購入した年：
2016年

「デザインの目標は、人々を良い気分にさせることです。私が特にこだわっているのが家のインテリアデザインです。家が人にもたらすものは何でしょう？家は人をほっと安心させ、あたたかく迎え入れてくれます。これがデザインの果たすべき役割なのです。」

Jason Miller

ニューヨークに生まれ、コネチカットで育ったミラーは、子ども時代を過ごした郊外の雰囲気に大きな影響を受けています。インディアナ大学で絵画を学んだ後、ニューヨーク・アカデミー・オブ・アートでMFAを取得。アーティストであるジェフ・クーンズの工場のようなスタジオで働いた後、自分のデザインに取り組み始めました。静かな自信に満ちたこのデザイナーは、モダンなジオメトリとアメリカを象徴するものを融合させた作品を作っています。ピーター・ハリーやトニー・マテリの絵画と並んで、天空の星座のように彼のアパートの天井に吊るされたエジソン電球やシカの枝角はその一例です。「デザインの目標は、人々を良い気分にさせることです。」とミラーは語ります。「私が特にこだわっているのが家のインテリアデザインです。家が人にもたらすものは何でしょう？家は人をほっと安心させ、あたたかく迎え入れてくれます。これがデザインの果たすべき役割なのです。」

ミラーの会社「Roll & Hill」は、倉庫街をガラスとスチールのモダンなオフィス街へ再開発したインダストリー・シティにあります。ここでミラーは他のアーティストや企業、そして自分自身の作品をデザインしています。きめ細かく計算された実験とモジュール生産という哲学を持つミラーは、デザイン界を代表する寵児として注目されています。そんなミラーが職場でも家でも気に入っているのがUSMハラーです。「USMの家具は、どんな環境にもしっくりなじみます。」とミラーは言います。「モジュール式の家具は冷たく面白みのないものになりがちですが、USMの家具や当社の照明のように、デザインと品質によってモジュール式であることを感じさせないものもあります。柔軟性が高いモジュール式というだけで、素晴らしい家具や作品になるわけではありません。」

A perfect dining experience

株式会社グローヴディッシュは、東京・銀座を拠点に大人が楽しみくつろげる空間としての本格フレンチビストロやバーを展開し、ケータリングビジネスのほかレストランやカフェのコンサルティングも行う会社です。 その予約制レストラン「R」は、オーダーするお客様が主役のオートクチュールの世界です。

会社名：
株式会社グローヴディッシュ

分野：
レストラン、ケータリング、
コンサルティング

所在地：
東京 銀座

USMをはじめて購入した年：
2012年

株式会社グローヴディッシュ代表の森健一氏は、「飲食店を直接展開することで、その料理を食べたいと注文されるお客様に、直接料理を提供し、接客し、反応を見ることができます。それによってサービスの向上や、ケータリングでのアイデア、他のビジネスへのソースとして活用することができます。まさに我々のビジネスの基本です。」と語ります。店舗デザインを進める上でインテリアはデザイナーに任せるのではなく、森氏が自分で見て触れた第一印象で「いいな」と思うものを決めていきます。バー、ビストロ、予約制レストラン「R」のそれぞれの店舗のテイストや性格、お客様の滞在時間などを考慮しながら、まず椅子を決めます。その後テーブルを選び、照明を選ぶというように積み上げていくようなプロセスをとります。

予約制レストラン「R」は、わがままとも言えるほどに料理と空間を大切にしたオーダーする人が主役のオートクチュールの世界です。そこには応接室のような仰々しさはなく、生活感の垣間見られる北欧のリビングのようなモダンデザインで、「集まった皆で楽しむ」というコンセプトのもと、家族や仲間がひとつのテーブルを囲みながら、楽しいひと時を共有するための空間です。もともと森氏が好きだった北欧デザインの木とステンレスやスティールが、森氏の目論見どおり調和しています。 その空間にアクセントとして採用されているのがUSMハラーです。以前偶然見掛けたそうで、その後ショールームを訪問、「いいものだ」と実感され使いたいと思って、まずは好きな色である清潔感のある白のユニットをオフィスに導入されました。そして予約制レストラン「R」には、フランスから来日した有名レストランシェフのサインや絵が描かれた淡いブルーの壁に合わせ、「冒険だった」というスチールブルーを選択。継続的にUSMを導入されるのは、丈夫であることはもちろん、シンプルな四角い枠のユニットが思い通りに組み合わせられ、デザインを考えるのが毎回とても楽しみだからだそうです。

家具から食器、カトラリーまでこだわり抜く森氏は「機能やデザインの優れたものが身の回りにある生活は心を豊かにします。豊かな心は接客サービスのプロとして我々にとても大切なことです。」と話します。飲食店に携わるサービス業のプロの社会的地位を上げたいという理想を持って10年前に起業した森氏は、スタッフもクリエイティブな仕事にプラスになるような様々なことを吸収するための時間が必要だと考えていて、それが実践できるような体制を実現しています。

Old love never dies

結婚式を控えたカップルは、その日を特別な1日にしたいと思うものです。そのために、さまざまなことを決めて手配していくという準備のプロセスを忘れるわけにはいきません。そのすべての流れを一つのイベントととして考え、愛が永遠に続くことを教えてくれるのが、このブライダルショップです。

「モジュール性と柔軟性を備えたUSMの家具を使うことで、以前は不可能だと思ったことが可能になったのです。」

会社名：
ヘンゼル＆グレーテル

名前：
クリスティーネ&
クラウス・リュ―リンガー

職業：
「ヘンゼル&グレーテル」
オーナー兼CEO

分野：
ファッション

所在地：
オーストリア、
グンスキルヒェン

USMを初めて購入した年：
2016年

オーストリア最大のブライダルウェアショップであるHänsel & Gretelは、アクセスの悪い地域にあるにも関わらず、国内のあらゆる地域からお客様が訪れます。衣装とアクセサリーの品ぞろえの豊富さだけでなく、扱っている商品の多くは希少品で、中にはただひとつしかないデザインのものもあります。

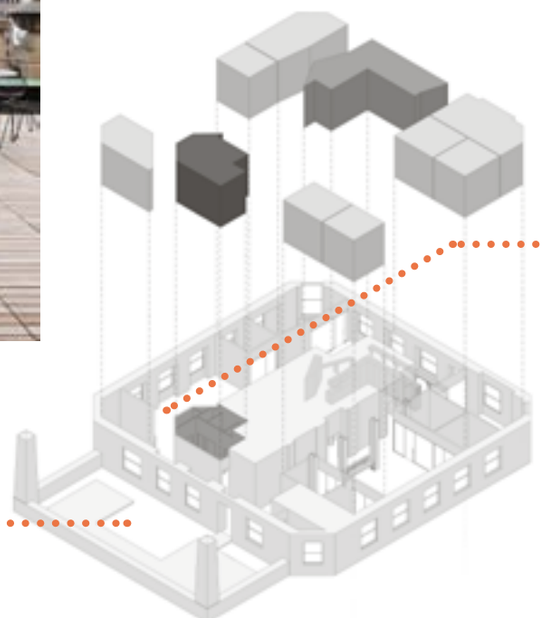
店内には、エレガントなレースやビーズ飾りを展示したラック、靴やネクタイ、カフリンクスがディスプレイされた幾何学的なデザインのユニット、収納、試着室、プレゼンスペースがあり、それらが美しく調和しています。エレガンスとスムーズな動線を同時に実現したこの空間は、インテリアデザインの観点から言うと、実は大変難しいことなのです。

このチャレンジは、USMで解決できました。これには、オーナーのクリスティーネ・リュ―リンガーさんも驚いたようです。「モジュール性と柔軟性を備えたUSMの家具を使うことで、以前は不可能だと思ったことが可能になったのです。」と、彼女は語ります。

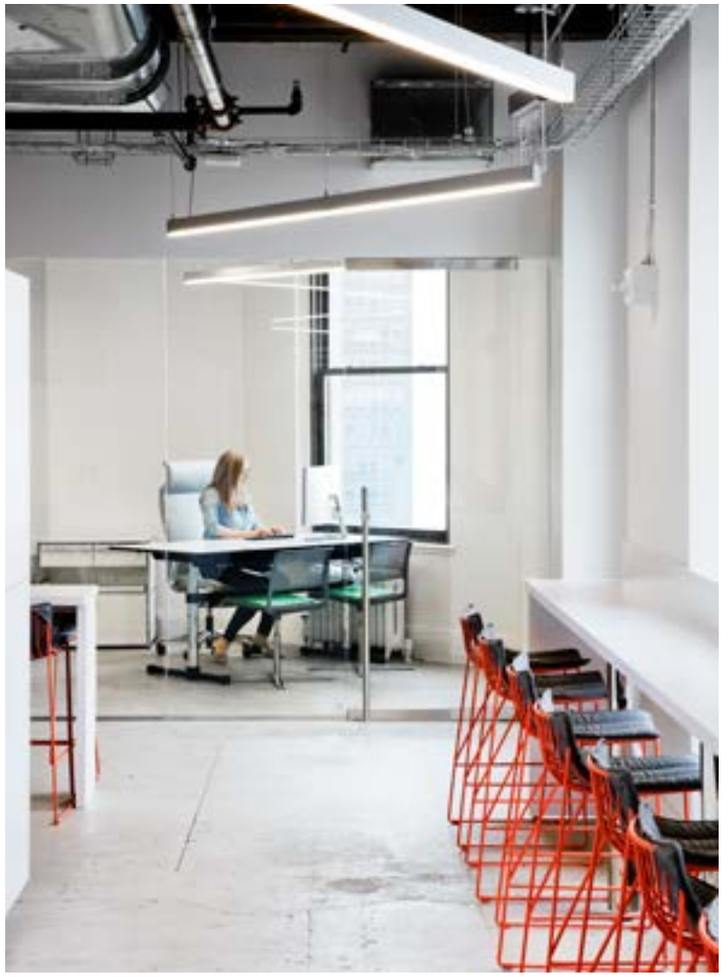
起業家である彼女は、最近この家具を取り入れてオフィスの改装もしました。「クラシックでタイムレスなデザインが好きです。数年経った後も、USMハラーは美しいままです。」と、この家具ブランドに惹かれる理由を改めて説明してくれました。

Flexible and structural

ヨーロッパのソフトウェアのスタートアップ企業は、ブランドイメージにふさわしいオフィス、さらにそのインテリアデザインを世界中の他の国でも再現できるフレキシブルなオフィスを求め、USMの汎用性や信頼性に注目しました。



「実績と歴史を持つUSMは、このプロジェクトで最初に指定した商品でした。きちんとしたオフィスという印象のインテリアになるだけでなく、オプションやアクセサリーの種類が豊富にそろっていたからです。パリ、ニューヨーク、あるいはアジアまで、どこでオフィスを設計する場合も、同じ色のまったく同じ家具が使えるという安心感がありました。」



会社名：
Zags（ザグズ）

業種：
保険ソフトウェアの開発、ソリューション事業

所在地：
アメリカ、ロウワー・マンハッタン

USMをはじめて購入した年：
2015年

保険ソフトウェアの開発やソリューション事業を展開するスタートアップ企業、Zagsのニューヨークオフィスを設計する際、Studio Razavi Architectureに求められたことは、ニューヨークオフィスだけでなく、パリの本社や、将来的にアジアに会社が拡張した場合にそのオフィスにも適用できるようなデザインにすることでした。そこで建築家たちは、ニューヨークオフィスの直線に仕切られた典型的なレイアウトを取り払い、社名の「Zags」にちなんでジグザグの空間を作り、照明の配置も空間に合わせました。「実績と歴史を持つUSMは、このプロジェクトで最初に指定した家具でした。整然としたオフィスという印象のインテリアになるだけでなく、オプションやアクセサリーの種類が豊富にそろっていたからです。」と、プロジェクト担当の建築家、アンドニ・ブリオネスは語ります。「また、パリ、ニューヨーク、あるいはアジアまで、どこでオフィスを設計する場合も、同じ色のまったく同じ家具が使えるという安心感がありました。」会社のニーズが進化した場合も、USMなら既存の家具にマッチするものが必ず見つかると、ブリオネスは全幅の信頼を寄せています。「これがUSMを選んだ重要な理由の一つです。」と彼は語ります。

A library by design

学び、理解し、知識を共有したいすべての人にとって、
現代的で利用しやすい革新的な場所。

施設名：
メディアテーク B612

分野：
メディア・センター

所在地：
フランス、
サン・ジュニ・ラヴァル

USMをはじめて購入した年：
2015年

「星の王子さまが住んでいたのは、
小惑星B612だと信じています。
星の王子さま - アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリ

マルチメディアライブラリーを超える存在感を持つこの建物に、この哲学的な童話に登場する惑星以上にふさわしい名前があるでしょうか？フランス、リヨン近郊のサン・ジュニ・ラヴァルにあるこの図書館の名前は、まるで天文台をイメージさせるように詩的で幻想的です。

1990年に建てられたマルチメディアライブラリーは、サン・ジュニ・ラヴァル市民の心を掴み、そこに行くことが彼らの習慣になりました。しかし、20年後全面改装が必要になり、2015年12月にB612として再オープンしました。二重のガラスパネルを使用したモダンで居心地の良い建物は、改装しただけでなく、「学び、理解し、知識を共有したいすべての人にとって、現代的で利用しやすい革新的な場所」として、あらゆる世代にまさに「知識への扉」として開かれました。

ミーティングコーナーには、鮮やかなイエローのUSMハラーで構成されたモバイルインフォメーションポイントがあり、来訪者を迎えて読書エリアへ案内します。読書エリアには、さまざまな色とユニットのUSMハラーが設置されています。

A blank canvas

倉庫を改装したクリエイティブな空間のスタジオに、Moss & Lamがあえて選んだのは、煩雑になりがちな本や試作品、素材のサンプルを整理整頓するのに最適なUSMのシェルフでした。

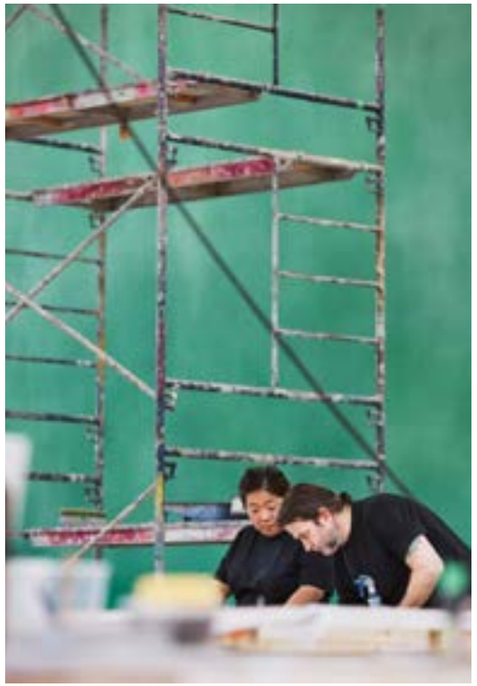
For a long time I used to go to bed earl
Sometimes, when I had put out my candl
eyes would close so quickly that I had no
time to say "I'm going to sleep." And hal
hour later the thought that it was time to
sleep would awaken me; I would try to pu
the book which, I imagined, was still in
nd, and to blow out the light; I had
ng all the time, while I was asleep,
just been reading, but my thoughts
channel of their own, until I myself
ly to have become the subject of my

会社名：
モス＆ラム スタジオ

分野：
デザイン

所在地：
カナダ、オンタリオ州
トロント

USMをはじめて購入した年：
2016年



「USMの商品は、建造物のような存在感があります。さらにカスタマイズできて、オフィスまたは自宅などあらゆる空間にフィットするため、自分のパートナーのような家具です。また、自己主張せず整然としていて、それでいて存在感があるのです。」

20人のアーティストとデザイナーから成るMoss & Lamのチームは、トロントの中心地の外れにある天井の高さが5,5フィートの倉庫だったスタジオを拠点に、大規模な壁画、彫刻、家具を制作しています。アーティスト、デザイナー、起業家を兼任する共同創立者のデボラ・モスは、汎用性の高さとスイスならではの秩序のあるデザインが気に入って、USMのシェルフを選んだと言います。「USMの商品は、建造物のような存在感があります。さらにカスタマイズできて、オフィスまたは自宅などあらゆる空間にフィットするため、自分のパートナーのような家具です。」と、彼女は語ります。きっちりと狂いなく組み立てられたUSMハラーのシェルフが設置された大きなライブラリーが、彼女のオフィスからスタジオまでつづきます。インスピレーションを求めるスタッフは、オンラインで検索するのではなく、ライブラリーの本を手に取ります。USMでカスタムデザインした拡張性のあるディスプレイウォールには、試作品や素材のサンプルが飾られており、ギャラリーのような趣でスタッフや来訪者を楽しませてくれます。「USMは、オブジェクトをアートのようにグレードアップさせてくれるのです。」と、モスは語ります。「自己主張せず整然としていて、それでいて存在感があるのです。」

「機能とデザインのバランスは難しいが、USMハラーは機能重視でもデザインが崩れない。」来院される患者さんたちが気持ちよく利用できるよう考えられた開放的大空間のリハビリ室に、引き締め役として選ばれたのはUSMハラーでした。

High-class care

ロクト整形外科クリニック（医療法人六人会）は、沖縄県を中心に地域に根ざした医療を長年にわたり展開しています。2016年、3院目として那覇市に開院した「ロクト整形Az」は、県立運動公園の隣地で河口と海に面するという好条件を活かして設計されました。今回特に注力した3階のリハビリ室は、他のフロアの1.5倍ほどの天井高をもち、海や空、周辺の景色を室内に存分に取り込んだ広々とした空間で、治療をされる患者さんが快適にトレーニングやリハビリに励むことができるよう考慮されています。

内装は、清潔感と同時に木目の意匠が多く取り入れられており、開放的な空間の引き締め役としてUSMハラーが選ばれました。カルテラックやマガジンラックのほか、事務用品の収納、衛生用品販売ケース、患者さんとのコミュニケーションカウンター兼間仕切りまで、そのフレキシブルな展開性を存分に発揮しています。

渡邊院長は、雑誌でUSMを知り、新しいクリニックでぜひ導入したいと数年前から考えていたそうで、「これだけシンプルなのに存在感がある。家具は用途とデザインのバランスが難しいが、USMは用途重視にしてもデザインが崩れない。」と評価されています。リハビリ室のほか、待合室、診察室など院内のさまざまな場所でUSMが導入されており、インテリアにもその特長が生かされています。

会社名：
ロクト整形外科クリニック

分野：
ヘルスケア

所在地：
沖縄県那覇市

USMをはじめて購入した年：
2016年

名前：
チップ・ラッセル

職種：
金融業

居住地：
アメリカ、ニューヨーク

USMをはじめて購入した年：
2016年

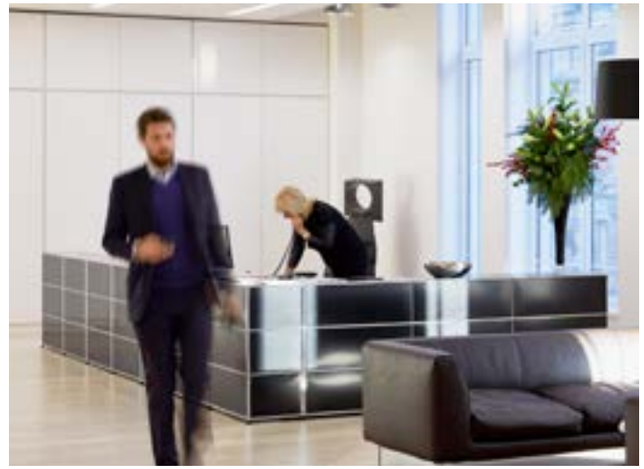
Maximum space

ニューヨーク市の賃貸のシンプルなワンルーム・マンションに住み始めたばかりの若い金融家にとって、リビングスペースと寝室をどのように分けるかということが、内装を考える上での一番の課題でした。一般的な考え方であれば、仕切るために壁を作ったでしょう。しかし、インテリアデザインを担当したOlasky & Sinstedenは、家具で空間を仕切ることを提案しました。そして選ばれたのがUSMでした。USMであれば、棚としてまたテレビキャビネットとして使用しながら、仕切りとしての機能も兼ねることができ、また寝室エリアに光を入れることもできたのです。そして、水平・垂直の黒の直線と三原色から成るモンドリアンの代表作からインスピレーションを受け、黒を基調にしたユニットに、赤、青、白のパネルをアクセントとして取り入れました。またメッシュのパンチングパネルを使用したり、お気に入りの物をディスプレイするためのスペースを設けたり、ブルーのドロワーを開けると引き出し側面に赤色が現れるなど、デザインにもこだわりました。

「USMの家具はジュエリーのようです。」と、インテリアデコレーターのマクシミリアン・ジンシュテデンは語ります。「また適応性がある点が何よりも気に入っています。もし引っ越すことがあっても、USMの商品なら、生活の変化に合わせてパーツを交換・追加したり組み替えたりすることで使い続けることができるからです。」

Modularity at its best

建築家のアルフォード ・ホール・モナガン・モリスが設計を手掛けた、ロンドンのニューオックスフォード・ストリートにあるスタンホープのオフィスでは、USMハラーが指定されました。そこで重要な役割を果たしているのは「色」です。



オフィス収納としてファイリングキャビネットを並べただけの時代はもう終わりました。収納家具もUSMを使えば、オープンな広い空間を仕切ったり、共同作業のスペースを作ったり、マルチな機能を発揮します。スタンホープのメインオフィスに設置されたグリーンのUSMハラーは、デスク脇の収納として、また収納兼各エリアを仕切るパーテーションとして、さまざまな用途に使用されています。最初の設置以降、スタッフの業務の変化に応じて何度もレイアウト替えをしていますが、そんな時、USMのモジュール性の価値が証明されます。たとえば、オフィス中央にあった共有のプリンターとコピー機を囲む収納ユニットは、その最上段を取り外して高さを一段低くし、取り外したパーツは休憩やカジュアルなミーティングができるスペースを作るために再利用したりしました。

受付エリアは、実用性よりもデザインが優先されて収納が十分ではないことがよくありますが、ここではオープンで明るい空間に、ブラックのUSMが十分にその役割を果たしています。アメリカ人アーティストのドナルド・ジャッドのミニマルスタイルをイメージした受付カウンターは、来客から見えない場所にたっぷりとした収納とデスクを備える一方で、オープンで利用しやすい雰囲気を作り出しています。

会社名：
スタンーホープ PLC

分野：
不動産開発

所在地：
イギリス、ロンドン

USMをはじめて購入した年：
2015年

Tradition and cutting-edge design skilfully combined

宝石商のパルム家は、1835年から、絵のように美しい古都ヴェッツラーを拠点に事業を営んでいます。6代目が率いる家族経営の企業で、伝統的な価値観とモダンな感性の融合が特長です。

会社名：
ユヴェリエ・パルム

分野：
小売業

所在地：
ドイツ、ヴェッツラー

USMをはじめて購入した年：
2017年

「USMハラーEは、空間、照明、家具の完璧な調和を演出します。」

長い歴史を持つ半木造の建物を現代の生活に合わせる一方で、その建物の特長を最大限に活用するために、6代目となるマネージングディレクターのヨルグ・パルムは、2016年、内装のリフォームを開始しました。そして、Knorz – Raum für Konzepteのエキスパートや国際的なリテール・ショップのデザイナーらと協力し、最先端のインテリアデザインを取り入れました。彼らはまた、この改装にサスティナビリティを考慮し、モジュール式のUSMハラーを使うという意見で一致しました。当初、そのアイデアは実現に至りませんでしたが、2017年のミラノサローネでUSMが発表した新商品USMハラーEは、このコンセプトにピッタリ合致しました。USMハラーEは、天井が低く、自然光が入りにくいという古い建物故の最も難しい問題を解決することができたのです。デザイナーは、空間、光、そして家具の完璧な調和を作り出す必要がありました。このプロジェクトは、プランニングからデザイン、設計作業に至るまで膨大な時間を要しました。その結果、伝統を育んできた宝石商の個性とモダンなインテリアが作る雰囲気とが見事にマッチした、息をのむほど素晴らしい空間が完成したのです。

「あらゆるヴィジュアルがストーリーを持っているのであれば、私たちが着る服や身の回りにある物はすべてそうでなければならない。」それがアヴリル・ノーランとクイ・グエンのプライベートとビジネスの両方に対する哲学です。

Driven by a curiosity

「こういうと皮肉に聞こえるかもしれませんが、私たち『FORM』は物自体よりもその背景にあるストーリーを重視しています。ちょうどフォークミュージックが伝承であるようにね。私たちは、伝え共有する作業を続けているのです。」と、グエンは語ります。

会社名：
FORM Vintage

名前：
アヴリル・ノーラン&
クイ・グエン

職業：
キュレーター

所在地：
アメリカ、ニューヨーク
ブルックリン

USMをはじめて購入した年：
2016年

「初めてクチュールの作品を見て、その構造や作りの素晴らしさを目の当たりにした時の衝撃は忘れられません。それ以来、私はファッションの歴史に興味を持ってファッション雑誌をむさぼるように読みました。間違いなく、あの体験が私を変えたのです。」

「人が気に留めないものにこだわるのが私たちの特長です。私たち二人のビジョンはうまく融合していると思います。」

The world is a stage

自らも持続可能な組織の実現を目指す株式会社エムステージで、オフィスの統一デザインの家具として採用されたのはUSMハラーとUSMハラーテーブル。モジュールを活かしたグリッドデザインで美しく整理された空間作りを担っています。

会社名：
株式会社エムステージ

分野：
医療関連サービス、
マーケティング、
メディア事業

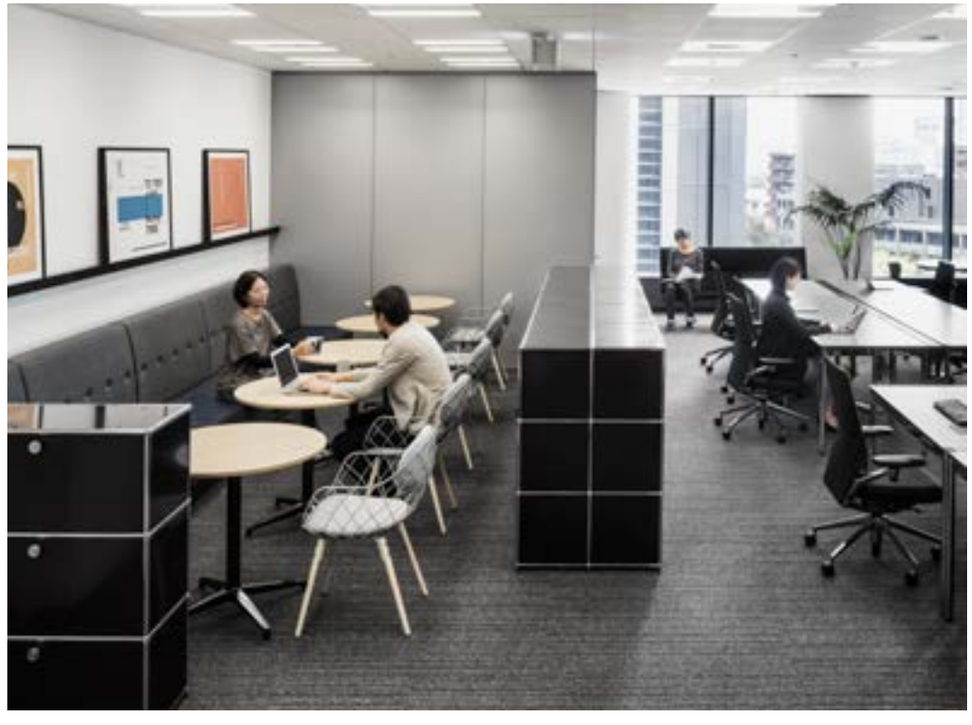
所在地：
東京 品川

USMをはじめて購入した年：
2012年

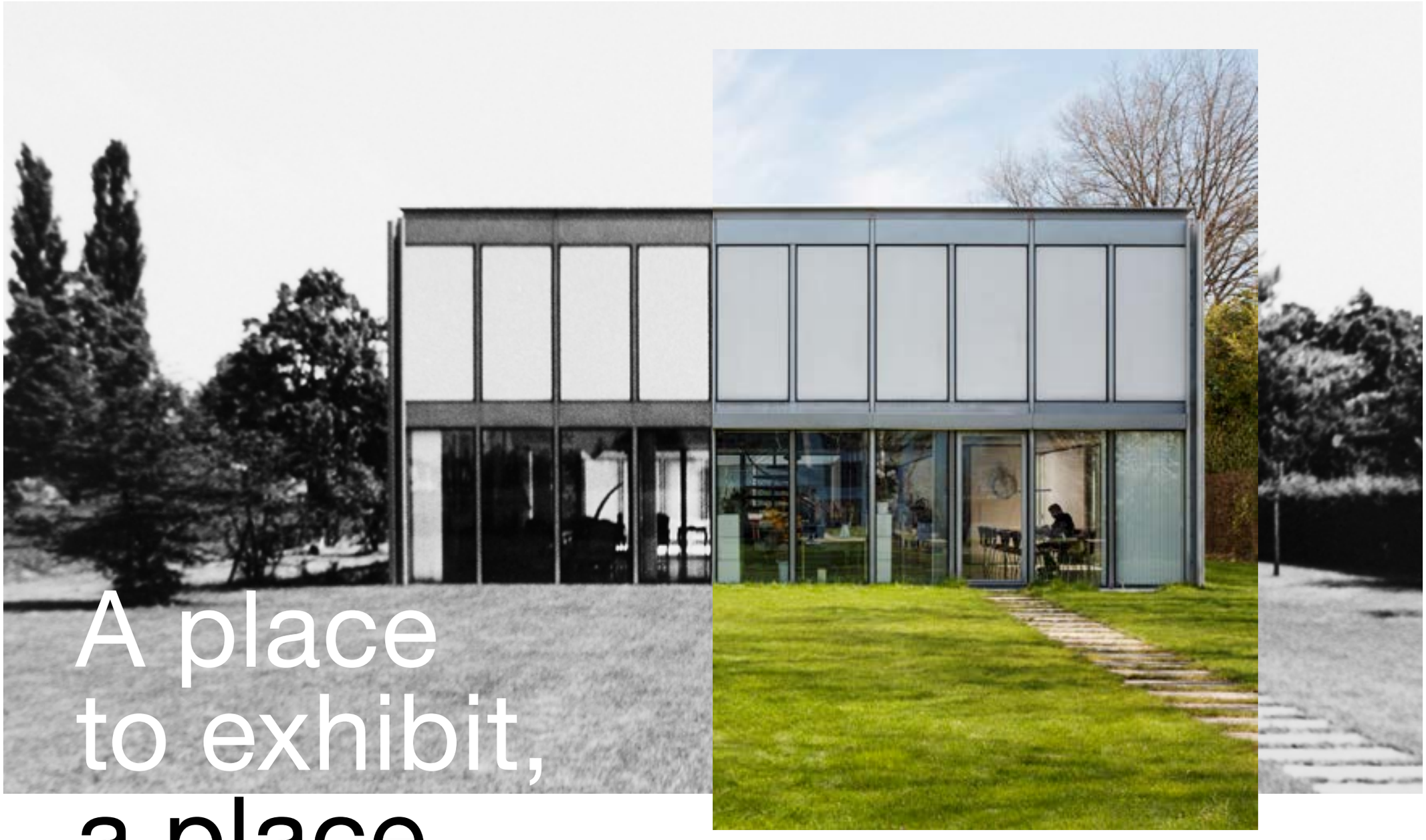
株式会社エムステージは、医師の求職支援や、医療機関の経営支援、企業向け産業医サポートなどを主軸に、日本の医療が抱える諸問題を解決し「持続可能な医療」の実現を目指す会社です。東京に本社、全国の主要都市に10の支店を構えています。

代表取締役の杉田雄二氏は、「まず、持続可能な医療を実現するためには、自らも持続可能な組織である必要がある。そのためには時代や社会の変化を読み取り、会社も成長と共に変化していかなくてはならない。」と話します。そこで、モジュールで組み合わせることも、必要に応じて変化させることもでき、且つシンプルで飽きのこないデザインで、医療における信頼・安心・クリーンというテーマに対しても同様のイメージを重ねることができる家具として、USMハラーをお選びいただきました。「USMハラーは、おそらく50年後、100年後でも廃れないデザインとして存在していると思います。会社もそうありたい。」というビジョンを持たれています。

ここ東京オフィスはじめ他の支店でも、ワーキングスペースにはブラックとホワイトのUSMハラーを使って空間を引き締め、仕事場としてある程度の緊張感を与えています。それに対して窓際には、イエローのUSMハラーをパーテーションとして用い、ワーキングスペースと空間を緩く間仕切り、カフェカウンターのあるオフスペースを設けました。それぞれのスペースには、フリーアドレスのワークデスクが置かれ、社員が思い思いに利用できるコワーキングスペースを実現しています。連続する空間でありながらも、ブラック、ホワイト、イエローのUSMハラーを同一の高さで用いることで、完全に視線を遮ることなく、集中したりリラックスしたりできる空間を演出しています。カラーバリエーション豊富なUSMハラーは、シェルフ兼パーテーションという機能を果たしながら、色によって空間の役割も変えることができるのです。



gta Archiv / ETH Zürich, Fritz Haller

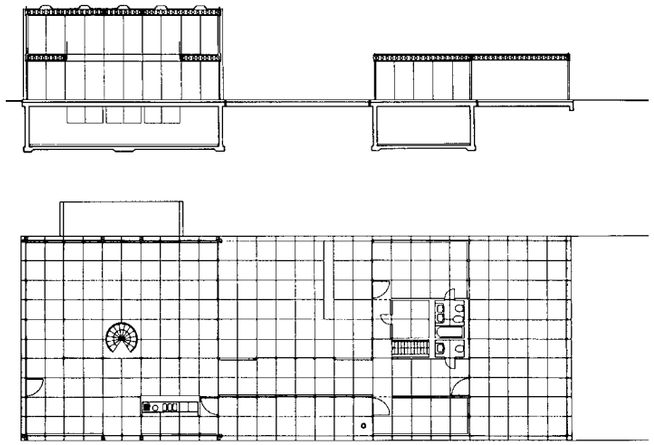


A place to exhibit, a place to work

鉄骨モジュラー建築システムのHafter Hausを特徴づけているのは、建築と家具の親和性です。オフィス空間には、スティール製システム家具であるUSMハラーの真髄が反映されています。

1977

Hafter Hausは、USM本社工場の鉄骨モジュラー構造を応用して建てられました。現在は、Branger Architectsのオフィスとして使用されています。



gta Archiv / ETH Zürich, Fritz Haller

「膨大なアートコレクションのための家ではなく、人とアートコレクションが共存できる家」建築家のフリッツ・ハラーは、クライアントのエディス・ハフターコットマンの要望をこのように表現しました。

1976年から1977年にかけて、スイス、ゾロトゥルンに建てられたこの家に、ハラーは、USM本社の工場棟のために開発した鉄骨モジュラー構造の「Maxiシステム」を応用して、戸建てやパビリオン、スタジオのために考案した「Miniシステム」を取り入れました。現在、この家は歴史的記念建造物となっていますが美術館ではありません。慎重に改装工事を行い、2015年にBranger Architectsは本社をここに移転しました。その後、450平方メートルにおよぶ室内を20人の建築家たちが働くワークスペースに変えました。

40年前、現代アートやアンティーク作品と組み合わせるには、USMハラーは理想的なインテリアでした。現在、USMハラーのシェルフやテーブルを用いたレイアウトは、この家の幾何学的なデザインと共鳴しています。 Branger Architectsは、この家の歴史を維持しただけではなく、インテリアデザインそのものも受け継ぎました。デザイナーたちは、オフィス家具を引継ぎ、一部を作り直したり、新しい家具を補充したりしました。 ホワイトとライトグレーのUSMハラーのシェルフとパールグレーのUSMハラーテーブルのグリッド、素材、配色が、柱や天井のグリッドと呼応してしっくりとなじんでいます。目を惹くのは、中央に置かれたブラックのサイドボードです。それらは、2階スペースに相対するかのように、吹き抜けの階段周りをU字型に囲んでいます。

gta Archiv / ETH Zürich, Fritz Haller

1964
USM本社のオフィスは、工場棟で採用された鉄骨モジュラー建築のMaxiシステムを1:2のスケールに縮小して設計されました。

gta Archiv / ETH Zürich, Fritz Haller

1969
Hafter Haus同様、USM3代目経営者のポール・シェアラーの自邸は、鉄骨モジュラー建築のMiniシステムに基づいて設計されました。

建築家のアドルフ・ベーネは、「家具（動くもの）は、不動産（動かないもの）から発展したものだ。」と言う名言を残しました。つまり、家具というのは、それが置かれる空間に対応してデザインされるということです。この概念はハラーにも通じています。Branger Architectsは、デザイン、形、使用素材など、建物と家具の関係性をより高め、彼らのクリエイティビティーを際立たせました。

1965
USMハラーは、もともとUSMの鉄骨モジュラー建築のオフィスで使用する家具として建築のモジュールシステムを応用して開発されました。

Reduced to the max

シックでミニマリストなブランド「Le Gramme」の躍進を支える2人組、アドリアン・メシエとエルワン・ル・ルエ 。1人は著名なインテリアデザイナーであるアンドレ・プットマンのかつての同僚であり、もう1人はデザイナー/ジュエリーメーカーとして名を馳せた友人同士。彼らは、ポンピドゥー・センター近くに彼らのオフィスを開きました。

会社名：
ル・グラム

名前：
アドリアン・メシエ、
エルワン・ル・ルエ

分野：
デザイン

所在地：
フランス、パリ

USMをはじめて購入した年：
2014年

何よりもシンプルなラインで作られた機能的な商品で、そのシンプルさゆえにアイコン的な存在となっています。

Adrien Messié and Erwan Le Louër

エルワンとアドリアンに共通する建築やデザインに対する情熱から生まれた「Le Gramme」（ル・グラム） は、重量の単位にちなんで名づけられました。幅やプロポーションにバリエーションをつけたシンプルな形なので、それぞれ重量も異なります。ブレスレットやリングといった身につけられるアイテムからシルバーの定規など機能的なアイテムまで、すべてフランス製です。そのバリエーションは、シンプルな形、高品質な素材、パターン、仕上げ処理を考慮して生まれたものです。

ブランドの立ち上げは大きな賭けでしたが、最初のシーズンから、 パリのコレット、東京のスーパーエーマーケット、ニューヨークのオープニングセレモニーなど、10店の一流店でコレクションを展示することになりました。現在、Le Grammeは20ヵ国以上に100店舗を出店しています。

2人は、彼らのパリオフィスのために、木製の収納棚をはじめすべての内装をデザインしました。パリオフィスは、レンゾ・ピアノとリチャード・ロジャースが設計を手掛けたポンピドゥー・センターの近くにあります。未来を思い描きながら前進する彼らがオフィス家具として選んだのは、USMハラーでした。シンプルな形、豊富な種類のサイズやカラー、機能性を併せ持つUSMハラーは、Le Grammeの作品と同格だと彼らは考えたのです。 コンセプトを重視する彼らにとって、それは当然のことのように思われます。

Let’s get together

デザインの本質を追及し問題解決を導くプロフェショナルが働くのは、上質なラグジュアリー感とモダンさを表現するオフィス空間。クリエイティブコンサルティング会社 ziginc. は、そのビジネスに対する姿勢を体現化する空間を創造しました。

会社名：
株式会社ジグ

分野：
クリエイティブコンサルティング

所在地：
東京 南青山

USMをはじめて購入した年：
2017年

株式会社ジグは、事業や商品の企画・開発、デザイン制作を行うクリエイティブコンサルティング会社です。単に依頼された商材やポスターなどをデザインするのではなく、開発段階あるいはPRの構想段階からクリエイティブ全体のコンセプトをマネージメントしながら関わることを主眼においており、その姿勢を自社オフィスで体現化し、クライアントに示すことはとても重要であると考えています。

デザイナーでもある代表の小梶数起氏は、グレーをメインにしたニュートラルな空間をイメージして新オフィスの物件を探し、クライアントも多い南青山のこのテナントに決めたものの、建具やサッシュのクロームメッキの主張が強いと感じ、それらと家具を調和させるにはどうすべきかを考えました。まずコンクリートのグレーの空間に同調するグレーカラーの家具を探したもののなかなか見つからなかったそうです。しかし、USMハラーにはグレーカラーのバリエーションがいくつかあるため、思い通りの色を選ぶことが可能でした。次に、既存のクロームメッキのサッシュをUSMハラーのフレームとマッチングさせることで、主張を弱くできると考えました。

さらに小梶氏は「同じメーカーの商品は、メーカー側が統一感の取れる商品としてスタイリング提案しているものだと思うので、USMハラーに調和するものはUSMの商品が最適。」と考え、ハラーテーブル、キトステーブル、プライバシーパネルといったUSMのプロダクトライン4つ全てを使ってオフィス空間を構成。イノスボックスもスタッフの私物入れとして採用されました。これもアントラサイトとライトグレーの二種類を使い分け、USMの家具で統一しながらもグレーの濃淡で変化を付けています。「USMで統一することで、上質なラグジュアリー感とモダンさを表現するオフィス空間が完成する。コンクリートの空間に合わせたUSMは、過度な色味と圧迫感を軽減し、このオフィスから生まれる作品や我々の存在を際立たせてくれる重要な役割を担ってくれています。」

「社名である『ジグ』は、『治具（jig）』から名付けられました。『治具』とは、工作物を固定するとともに正確かつ迅速に加工するための精度の高い補助装置であり、モノ作りの現場において必要不可欠なものです。弊社は、『治具』そのものがデザインの本質であると捉えています。」

Kazuki Kokaji, CEO/Creative Director, ziginc.

The law in the right light

会社名：
ベア＆カレア AG

分野：
商業法律事務所

所在地：
スイス、チューリッヒ

USMをはじめて購入した年：
2013年

お客様からの期待が高く、実力が重視され、家具に、機能、品質、スタイル、そして時代を越えたモダンなデザインであることを求めるのはどこでしょう？それは、法律事務所です。

チューリッヒにあるベア＆カレアは、スイスで最も有名な商業法律事務所の一つです。数えきれないほどの賞状がその成功を証明しています。業界のトップに属するということは、当然のことながらあらゆる点において周囲からの期待値も高くなります。オフィスに関しても同様で、直線的デザイン、高級感のあるスタイル、そして組み合わせや構成が容易であることが、家具の品質に求められます。そのような法律事務所で、その期待に応えるのはUSMハラーです。2017年に改装された総合ライブラリーに設置されたUSMハラーのシェルフには、USMハラーEのエレメントが80個取り入れられました。さまざまな言語の雑誌、分厚い書籍、法律文書、資料などが並ぶ本棚を直接照明と間接照明のライティングで明るく照らしているので、部屋に入るとすぐに探していたものを見つけることができます。オフィスとライブラリーは仕切られることなく色、素材、デザインがしっくりと調和し、USMハラーEを使用することでアットホームな空間を作っています。デザイン性と実用性を兼ね備えた独特の組み合わせが、スタッフからも評価されています。実は、これがこの家具の最大の魅力なのです。「このライブラリーで仕事をするのは本当に気分が良いですよ。」と、スタッフのベアトリックス・シュルヒは満足気に言います 。

スイスの教職員組合であるLCHは、スタッフの健康管理は雇用者の義務の一つだと考えています。チューリッヒにある中央事務局の新オフィスの家具として、時代に左右されないデザインで高さ調節機能のあるUSMキトステーブルMが採用されたのはそのためでした。

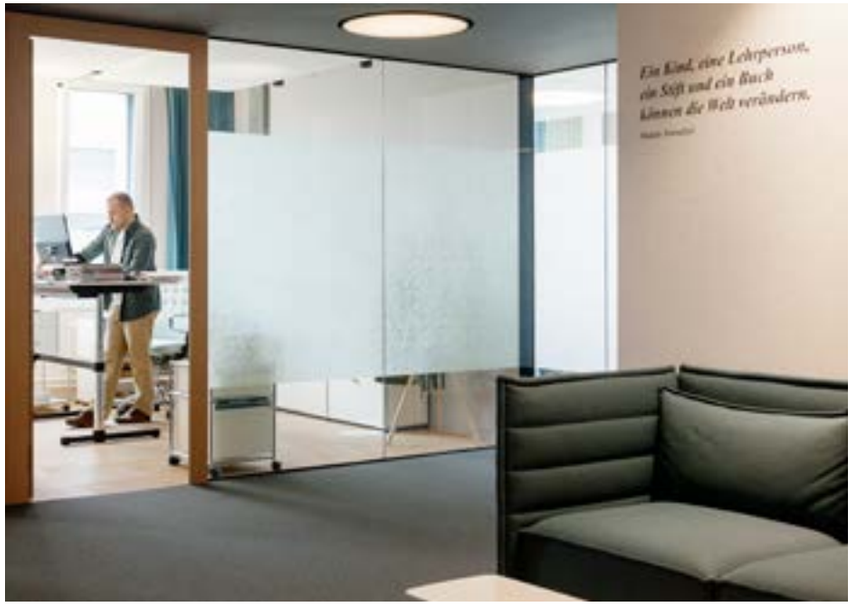
Top marks for decor

組織名：
LCH

分野：
スイス教職員組合

所在地：
スイス、チューリッヒ

USMをはじめて購入した年：
2018年



USMが私たちにとって意味するもの。それは、クオリティ、スタイル、シンプル、クラシック、スイス製、フレキシビリティ、そして伝統です。時代を越える魅力と先進性の融合なのです。

Franziska Peterhans

オフィスでの健康について問われる時、USMキトステーブルMが良く話題になります。USMキトステーブルMは、自由に高さ調節ができ、人間工学を考慮した職場環境を容易に実現することができると同時に、長く使用できるようデザインされています。この2つの要素のコンビネーションが、LCHの役員が彼らの新オフィスの家具にUSMキトステーブルMを選んだ理由です。「このテーブルを採用したのは、スタッフの健康管理の一環として、オフィスワークのさまざまな場面において健康をうながす機会を与えてくれるからです。結果として、これは健康への投資なのです。」と、中央事務局のフランチスカ・ペーターハンスは語ります。「またUSMのモジュール式の家具は特定の場所や形にこだわる必要がなく、新しい環境においてもニーズに合わせて再構築することができます。モダンであると同時に耐久性が高いのもポイントです。持続可能であることが問われる現代において、まさにそれを実現した製品です。USMはその投資に相応しい価値があると考えます。」フランチスカ・ペーターハンスは、将来的に変更や拡張ができる点だけではなく、仕事中における使いやすさについても評価しています。「何かを見せたい時、あるいはそれをすぐに片づけたい時も、USMの家具のおかげでスムーズに仕事ができます。」最後にデザインについて話してくれました。「USMのデザインは男性的であると同時に女性的でもあります。すべてにおいて現代にあった素晴らしい家具です。」

Modern workforce

小柄な2人の女性が、常識を覆し現代的な働き方でプロフェッショナルな実業家へと転身したその経緯とは？

「自分だけの使い心地のいい机に向かう一時は、自分だけの楽園にいるかのよう。」

2015年、オンラインマガジン「hey woman!」を創刊したヴェロニカ・ハイルブルンナーとユリア・クノッレ の2人。共通の友人を通して知り合って数年経った頃、2人はある夕食の席で話し始めました。「今、オンラインではどんな読み物が求められているのか?」彼女たちは長時間それをテーマに議論しました。

2人はいずれも有名なファッション雑誌で働いていて、新しい傾向が生まれつつあることを感じていました。それは、エリート主義から離れ、すべての人に業界を開放するデジタル民主化でした。こうした業界の激変は、既存のシステムを根本から覆しているのです。ヴェロニカとユリアはお互いに足りないところを補い合うことができるパートナーです。ヴェロニカは、インターナショナルなファッションウィークのストリートスタイルのアイコンとして活躍したり、フォトギャラリーをデザインし、セルフィーやお気に入りのアクセサリーの写真を投稿したりしています。一方、彼女のビジネスパートナーであるユリアは、デスクに座りノートPCに向かって会社のあらゆる事を管理しています。彼女たちがビジネスを始めて最初の数ヵ月間は、リビングルームをホー

会社名:
ヘイ・ウーマン!

分野:
オンラインマガジン

所在地:
ドイツ、ベルリン

USMをはじめて購入した年:
2018年

ムオフィスとして使用していましたが、会社が軌道に乗るにつれて専用のオフィスを持ちたいと思うようになりました。2人が思い描くインテリアデザインが形になり始めたとき、まだ若い出版ブランドである「hey woman!」のDNAを象徴する重要なデザイン要素として、USMが取り入れられました。そして、遂に彼女たちのオフィスが実現しました。

ヴェロニカの場合、彼女がいる場所がワークプレイスになります。彼女の仕事の90%は外出先で行われ、車や地下鉄、飛行機で移動中、あるいはホテルの部屋、24時間365日、場所や時間を選びません。ベルリンにある彼女たちの「本社」は、彼女にとって巡礼地のようになりつつあります。自分の快適なデスクに座っていると、そこは彼女自身の楽園のように思われます。メールではなく直接同僚と話をすることができるし、電源コンセントもスナックもコーヒーも常に手元にあります。そして、USMハラーEがシェルフのアイテムを明るく照らし、ぬくもりのある雰囲気を作ります。彼女たち2人にとって共通のお気に入りのインテリアが、空間にパーソナルな雰囲気を加えて時間を忘れさせてくれるのです。

Sensitive structuring

元シェフとして受賞実績もあるバイエルンのスパイス職人は、自分の料理学校にユニークな家具を取り揃えました。その中心にあるのは、数えきれない種類のスパイスを収納するためにデザインされたオリジナルのUSMハラーです。

会社名：
アルテス・ゲヴルツアムト

名前：
インゴ・ホランド

職業：
「アルテス・ゲヴルツアムト」
オーナー

分野：
香辛料生産

所在地：
ドイツ、クリンゲンベルク・
レルフェルト

USMをはじめて購入した年：
2016年

「USMハラーは、どんな家具にもデザインすることができます。」

Ingo Holland

インゴ・ホランドは、シェフを引退した後もスパイスへのこだわりを持ち、料理の在り方を追求し続けています。現在は、息子のキリアンとともにクリンゲンベルクで工場を営み、年間120トン以上もの選りすぐりの食材を生産しています。

4,000平方メートルの敷地には、料理学校、図書館、オフィス、イベントスペースがあり、それらの設計に携わった際、ホランドは優れた感性を発揮しました。「スパイス職人は五感のすべてを使う仕事です。建物の設計は基本的にセンチメートル単位で考えました。」と、説明してくれました。

起業家でもある彼は、どっしりとしたオーク材のテーブル、南フランス産の手吹きガラスのランプシェードなど、空間のアクセントとなるさまざまなアイテムを揃えました。そこにスティールの家具を合わせることで、彼は一貫性を演出したのです。「USMハラーは、どんな家具にもデザインすることができます。」と、ホランドは語ります。

長い間考えた結果、彼はUSMハラーの適応性が気に入ったと言います。「模様替えの時も、新しい家具に買い替える必要はありません。簡単にエレメントを増やして、あらゆるサイズや形に合わせることができるからです。」

Designing the future

手ごろな価格で知られる一流のイタリアファッションブランドが、シンクタンクを設立。成功の秘訣は、ファッション、テクノロジー、知識の共有です。

会社名：
インペリアル・
クリエイティブ・ラボ

分野：
ファッションブランド

所在地：
イタリア、ボローニャ

USMをはじめて購入した年：
2016年

「USMの家具の汎用性の高さのおかげです。
Imperialの服と同様、いろんな解釈ができるのです。」

「メイド・イン・イタリア」のブランドとして知られるImperialが、2015年に設立したImperial Creative Labは、顧客志向のビジネスモデルを常に再確認できる革新的なラボです。ボローニャのアパレル卸売業の集まる地域、ツェンテルグロスにあるテクノロジーハブは、Imperialの先進的なアプローチを具現化したものです。

500平方メートルのスペースに、エンジニア、コミュニケーションの専門家、生産マネージャーが肩を並べて、社内のデザインと生産プロセスを向上するための新しいツールの開発に取り組んでいます。販売状況をリアルタイムで把握できるソフトウェアと、拡張現実に基づく3Dモデリングとシミュレーションテクノロジーによって開発されたいわゆる「トラッキングルーム」は、その取り組みを示す優れた例です。

開放感のあるスペースは、風通しの良い組織と柔軟性という企業理念を反映しています。大胆なブルーとイエローのUSMプライバシーパネルは、この空間に完璧にマッチしていて、マルチカラーがアクセントとなりつつも空間の雰囲気を損ないません。その結果、異なるオフィスゾーンが見事に調和し、モダンでカラフル、かつ居心地の良いオフィスが誕生しました。「USMの家具の汎用性の高さのおかげです。Imperialの服と同様、いろんな解釈ができるのです。」

Make it yours – Edition N° 2
will be published as a
USM magazine with a print run
of 103,500 copies.

Concept and Editors
P'INC. AG, Langenthal (CH)
USM U. Schärer Söhne AG,
Münsingen (CH)

Copyrights
Fotografie © USM U. Schärer Söhne AG

Project Management
Sandra Schär (USM, Münsingen)
Carole Gerber (USM, Münsingen)
Tamara Röthlisberger (USM, Münsingen)
Urs Stampfli (P'INC. AG, Langenthal)

Design
P'INC. AG, Langenthal (CH)

Text
Freunde von Freunden –
www.freundevonfreunden.com (DE)
Laurent Crochet, Paris (FR)
Karin Hänzi Berger, Bern (CH)
Rahel Hartmann, Bern (CH)
Belinda Lanks, New York (USA)
Paul Makovsky, New York (USA)
Trollhauser GmbH, Lucerne (CH)

Photography
Freunde von Freunden –
www.freundevonfreunden.com (DE)
Hideki Anzawa, Tokyo (JP)
James Chororos, New York (USA)
Evan Dion, Toronto (CAN)
Steve Friehon, New York (USA)
Gareth Gardner, London (UK)
Christophe Glaudel, Paris (FR)
Hiroshi Ito, Tokyo (JP)
Seraina Lareida, Bern (CH)
Nacása & Partners Inc., Tokyo (JP)
Tadahiko Nagata, Tokyo (JP)
Daniel Sutter, Zurich (CH)
Mariluz Vidal, Barcelona (ESP)
Mark Wickens, New York (USA)
Connie Zhou, New York (USA)

スイス
USM U. Schärer Söhne AG
Thunstrasse 55, 3110 Münsingen
電話 +41 31 720 72 72, info.ch@usm.com

ドイツ
USM U. Schärer Söhne GmbH
Siemensstraße 4a, 77815 Bühl
電話 +49 72 23 80 94 0, info.de@usm.com

フランス
USM U. Schärer Fils SA, Showroom
23, rue de Bourgogne, 75007 Paris
電話 +33 1 53 59 30 37, info.fr@usm.com

イギリス
USM U. Schaerer Sons ltd., London Showroom
Ground Floor, 49 – 51 Central St., London, EC1V 8AB
電話 +44 207 183 3470, info.uk@usm.com

米国
USM U. Schaerer Sons Inc., New York Showroom
28 – 30 Greene Street, New York, NY 10013
電話 +1 212 371 1230, info.us@usm.com

日本
USM U. シェアラー・ソンズ株式会社
本社/ショールーム
〒100-0005東京都千代田区丸の内2-1-1
丸の内MY PLAZA1・2F
電話03-5220-2221, info.jp@usm.com

その他の国については
お問い合わせください。

www.usm.com